

# 北海道から 秋田県へ

氏名 上谷直也

北海道星置養護学校 → 秋田県立比内養護学校  
(期間：平成25年4月1日～平成27年3月31日)

## 1 派遣先の学力向上等の取組

### ○ 学習環境の基盤

- ・ 支援学校ということもあり、学力向上に直接的に取り組む様子を見ることは多くなかった。
- ・ 秋田県は北海道のように高等支援学校を単置校として設置しておらず、既存の養護学校の高等部に様々なニーズをもった生徒が集まって学習をしている。
- ・ 地域との結びつきが強く、地域の土台に支えられて学校が成り立っており、保護者はもちろんのこと、地域からの協力を得て教育活動が展開されている。
- ・ 県を挙げて「地域・学校・学級の実態や幼児児童生徒の教育的ニーズに応じた特色ある教育課程の編成と改善」に取り組んでいる。
- ・ 町ですれ違った私とは面識のない小中学生が自然に「こんにちは」と挨拶してくる地域。

### ○ 学校全体の取り組み

- ・ 「社会に参加する力を育む」教育活動を重点の一つに置き、自立的な社会参加、地域に貢献する学校を目指した取り組みを多く行っている。

- ・ 比内養護学校は、広大な農地をもち、米をはじめとする農作物の生産に取り組んでい



1年目に担任した小学部5年生



広大な農地をもつ学校



特色ある教育活動「全校田植え」

るのが特色のひとつである。

- ・地域の行事にも積極的に参加し、「本場大館きりたんぽまつり」等、様々なイベントで作業製品や加工した農作物の販売を生徒が行っている。
- ・生活単元学習や作業学習を教育課程の中心に据え、様々な教科、領域と相互に関連させながら地域展開を見据えた教育を行っている。
- ・作業学習では、質にこだわっており、より上質な作業製品を製作、販売している。
- ・「自立的な社会参加」をキーワードに、集団活動を学習の基盤として、そこに参加する中で一人一人に合わせた学習を進めている。



本場大館きりたんぽまつりに出店



中学部木工班「イーゼル製作」

- ・地域支援委員会が分掌でなく特別委員会として組織されており、担当する教育専門監や担当教員だけでなく、様々な教員が輪番で外部の幼稚園保育所、小中高等学校の支援が必要な子どものサポートにあたる体制が作られている。

## 2 北海道に戻って実践したいこと

### ○ 成果の還元

- ・現在勤務している学校が小学校であるため、培ってきた実践を勤務している児童の実態に合わせて取り組んでいきたい。
- ・自立的な社会参加を目指した集団活動を基盤にした教育については、小学校でも必要な考え方であるため、個別対応ありきではなく、集団活動に参加するためのステップとしての個別対応ととらえた実践を積んでいきたい。
- ・他校との連携を含めたネットワークの中で、秋田県の取り組みを紹介したいと考えている。



地域と合同で行う「総合防災訓練」



県の支援学校の合同文化祭「スマイルステージ」